

# 令和6年度 長野県須坂看護専門学校運営会議 議事録

日 時：令和6年(2024年)7月17日(水) 午後2時から午後3時30分

場 所：長野県須坂看護専門学校 視聴覚室

出席者：17名

## 【外部委員】

荻原 幹子（須坂市健康福祉部健康づくり課課長）

松本 清美（長野県看護協会会長）

竹内 敬昌（信州医療センター病院長）

小林 彩（美須峯会（同窓会）会長）

西尾 律子（こぶしの会（保護者会）会長）

## 【オブザーバー】

寺島 敬子（長野県健康福祉部医師・看護人材確保対策課 企画幹兼看護係長）

水沢 直人（長野県健康福祉部医師・看護人材確保対策課 看護係主事）

## 【学校職員】

蔵之内 睦美 校長 以下 12名

- 内 容：
- 1 開会
  - 2 あいさつ
  - 3 自己紹介
  - 4 会議事項 (1)当校の概況について  
(2)令和5年度学校自己評価について  
(3)その他
  - 5 閉会

- ・提出議題の「令和5年度学校自己評価報告書」については、全委員より承認された。
- ・質問及び意見等に対する回答については別紙1のとおり。

区 分	質問及び意見	回 答
令和6年度概況書	<p>現場で働いている男性看護師に比べて学生全体に占める男子学生の割合が低いように感じるが、看護学校での一般的な男子学生の割合としてはこの程度か。</p> <p>社会人経験のある人にも看護職を目指してもらいたいが、社会人入学試験は今後も継続していくのか。</p>	<p>性別は考慮せず、基準に照らし合わせて合格者を決定している。イメージとして、看護職は女性が多く、男子学生が進路先を選ぶ際に、専門学校よりも大学を優先させている傾向があるのかもしれないが明確な理由は不明である。</p> <p>推薦、一般、社会人入学試験ともに受験者数が減少している現状がある。社会人入学試験ではリーダーシップがとれるような人材を求めているが、理想と現実のギャップもある。ただ、県として広く豊かな人材を確保していく使命があると考えており、社会人入学試験のみならず、推薦、一般入学試験もこれまでどおり継続していきたい。</p>
令和5年度自己評価	<p>教員体制を整備していく必要があると説明があった。教育の質を担保するためにも人材（看護教員）を育成して教育現場の体制を整備していくことを県にもお願いしたい。</p> <p>教員不足は他の学校でも問題となっている。病院と看護学校との人事交流等も考えていって欲しい。</p> <p>看護教員に関する情報を広く提供していく必要性もあるのではないか。</p> <p>進路アドバイザーとして高等学校の訪問などを行う中で、工夫していることや学校の変化など感じていることがあれば教えてほしい。</p> <p>人口減少という状況の中で、学生確保も教員確保も難しくなっている。若い人にアピールしていく方法として、SNSを戦略的に使っていく必要もあるのではないか。</p>	<p>教育体制を長いスパンでみながら作っていく必要がある。そのため、安定した教員の確保につながる方策を引き続き検討してまいりたい。</p> <p>教員の採用にあたっては、県のホームページ、ハローワーク、看護協会のナースセンターに募集を出している。</p> <p>看護系大学の開学もあり、進学の実選択肢が広がった。高等学校の進路指導において、特に進学校では大学が優先される。このような中で、大学、専門学校それぞれの良さがあることを伝えるようにしている。18歳人口の減少という現状の中で、今後も看護職の魅力伝えていくことが大切だと考えている。</p> <p>ホームページで積極的に情報提供をしている。また、進路アドバイザーが多くの学校を訪問し、当校の魅力を伝えている。</p>